

ンクレアチニン硫酸塩)と切り出し-アンモニア処理法で採卵し、幼生飼育は例年とはほぼ同様の方法で行ない、1mmサイズの稚貝を5.9万個体種苗生産した。大型シャコガイであるヒレジャコ(3個体)とシャゴウ(2個体)は7月26日に切り出し-アンモニア処理法で採卵したが両種とも生殖巣部の発達が悪くなく、得られたD型浮游仔貝数はそれぞれ15.7万個体、24.7万個体と少なかった。幼生飼育はヒメジャコと同様の方法でおこない、ヒレジャコでは受精後65日目の中間育成開始時に1mm前後の稚貝が2,600個体、シャゴウでは63日目に0.8~0.9mmの稚貝が9,800個体生残した。3種共屋外流水水槽で中間育成中であるが、シャゴウは中間育成開始後、原因不明の大量斃死がおこった。

(6) 底生生物調査は8月16日に湾内水路部の5地点でおこなった。また同一地点で粒度組成と塩酸処理後の残留率についても調査した。

(7) 水質等環境調査は保護水面区域内で下記の項目について実施した。

水温、比重、天気率、風向、栄養塩類等の水質、クロロフィル量及び透明度

特記すると年平均水温は25.2℃であり、1973年(昭和48年)からの観測資料の中では最も低い値であった。

参考文献

日本海洋学会編(1980):海洋環境調査法、恒星社厚生閣。

日本水産資源保護協会編(1980):新編水質汚濁調査指針、恒星社厚生閣。

沖縄県水産試験場八重山支場(1975):昭和49年度川平保護水面調査報告書、13pp。

—————(1976):昭和50年度同誌上、21pp。

—————(1977):昭和51年度同誌上、24pp。

—————(1978):昭和52年度同誌上、15pp。

—————(1979):昭和53年度同誌上、16pp。

—————(1980):昭和54年度同誌上、32pp。

—————(1981):昭和55年度同誌上、36pp。

—————(1982):昭和56年度同誌上、20pp。

—————(1983):昭和57年度保護水面管理事業調査報告書、1-29pp。

—————(1984):昭和58年度同誌上、1-26。

田中弥太郎、村越正慶(1984):昭和59年度日本水産学会春季大会講演要旨集、P131。

SCOR-UNESCO W. G. 17(1966): *Determination of photosynthetic pigments*. UNESCO *Manog. Oceanog. Methodol.*, 1, 9-18.

Strickland J. D. H. and Parsons T. R. (1972): *A Practical Handbook of Seawater Analysis, Fisheries, Research Board of Canada*.